

家庭や地域社会との連携の中で活用する

家庭や地域社会と学校をつなぐ「心の架け橋」を大きくする

本場面におけるポイント

- **道徳の時間の授業公開に生かす**
道徳の時間の授業参観で「心のノート」を用いて、保護者などの関心を高める。
- **協力体制づくりに生かす**
保護者会や地域の人々との協議会などで生かして「心のノート」への理解を深める。
- **道徳性を養う環境づくりに生かす**
地域の施設に「心のノート」の関連ページを置いたり、内容をポスターにして掲示したりする。



● 道徳の時間の授業を家庭や地域に公開する場で生かした事例

ある学校では、道徳の時間を公開するに当たって、「心のノート」を事前の活動や地域の講師との打ち合わせなどに積極的に生かすようにした。そうすることによって、その活動の中で子どもに感じ取らせたい道徳的価値について、共通理解を深めることができると考えたからである。また、道徳の時間の公開に合わせて「心のノート」を次のような方法で生かした。

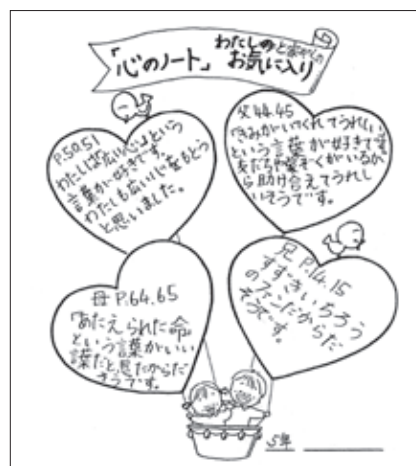
◎公開授業の概要

- 1 主題名 ふるさとをほこる(4年)
〔内容項目4-(5)〕
- 2 中心的な資料
「太平洋と日本海をふるさとのさくらでつなごう」
(文部省資料・平成6年)
- 3 ねらい 郷土に親しみと愛情をもち、郷土を大切にしようとする心情を育てる。
- 4 活用するページ
3・4年用P.88～91「わたしたちの心を育ててくれるふるさと」
- 5 展開の概要
(1) 荘川桜について知る。(VTRの利用)
(2) 資料「太平洋と日本海を…」を読んで話し合う。
(3) 老人クラブの会長さんと、地域のよさについて話し合う。(「心のノート」の活用)
(4) 唱歌「ふるさと」を、参観者も含めてみんなで合唱する。

◎「心のノート」活用の実例

◇協力してくれる老人クラブの会長との打ち合わせのときに、授業のねらいなどの理解を得るために用いた。

◇展開(3)の話合いのときに、事前に書き込んだP. 90～91を開いて、地域のよさや自慢できることを交流した。



「心のノート」わたしと家族のお気に入り

◎「心のノート」の活用を広げる工夫

ある子どもは、授業の後、「心のノート」わたしのお気に入り」のカードに、家族一人一人の気に入ったページを書いてきた。家族みんなで見て話し合ったのだという。そのことを学級で紹介して、他の子どもにも家庭で一緒に見てみることを勧めた。

● 家庭や地域との協力体制づくりに生かした事例

(1) 共通理解を深めるために保護者会で話題にする

保護者会の日、子どもに「心のノート」のページのファイルを机の中に置いておくように伝え、会の中でファイルを机に出して、みんなで話題にした。保護者にとって「心のノート」の内容を理解する貴重な機会となったようだ。ただし、低・中学年段階ではこのような方法で進められることも多いが、高学年になると、「心のノート」のページに書いた内容を見られたくないと感じる子どもも多く、プライバシーに配慮しながら用いることが必要になる。

(2) 地域とともに歩む学校づくりのために「子育てシンポジウム」で用いる

地域に呼び掛けて「子育てシンポジウム」を開催した。また、それに先だって、「心のノート」の内容全体が描かれた鳥瞰図を生かしてアンケートを実施した。

当日は、下のようなプログラムで行った。まず、学校からは、日常の教育活動を報告したり、「心のノート」を使った家庭との交流について話題にした。

続いて、シンポジウムでは、学校、家庭、地域、それぞれの立場から日常考えていることを代表者が提案し、アンケートの結果も発表しながら話し合った。



子育てシンポジウムでの意見交流

子育てシンポジウム

- 1 はじめのことば
- 2 校長あいさつ
- 3 PTA会長あいさつ
- 4 学校の教育活動の様子と「心のノート」
- 5 子育てシンポジウム
◇子どもたちが今考えていること
◇保護者の声から
◇地域の人たちの願いから
～アンケートの集計結果について～
◇自由討議、全体討議
- 6 これからの連携について(まとめ)

● 子どもの心の豊かさを育てる環境づくりに生かした事例

(1) 道徳ポスターにして公民館に掲示する

月ごとにテーマを設定し、それに関連した「心のノート」のページや子どもの作品、保護者や地域の人々のメッセージなどを合わせたポスターを作成し、地域の公民館に掲示させていただいた。また、そこでは、「心の交流ノート」を置いて、ポスターを見た感想や意見などを自由に書いてもらえるようにした。

(2) 「心のノート」を公共施設に置く

公民館、高齢者施設のロビーなどに「心のノート」の関連ページを置いてもらい、地域の人々に内容を知ってもらうように努めている地域がある。地域ぐるみで子どもの心をどう育てるかについて、関心を深めていききっかけになると考えられる。



心をつなげる道徳ポスター「家族っていいね」

家庭や地域社会との連携の中で活用する

本場面におけるポイント

●学校における道徳教育の取組の様子を家庭に伝える

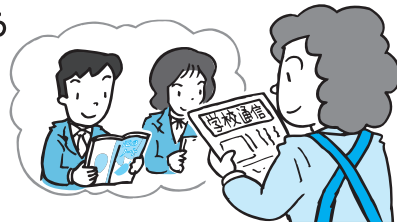
学校だよりなどで「心のノート」の活用事例を紹介することにより、学校で取り組んでいる道徳教育の様子を家庭に伝え、その理解を得ることができる。

●地域の掲示板を生かす

地域の掲示板等で「心のノート」の活用事例を掲示することにより、子どもたちの考えや活動の様子を、家庭、地域の人々に伝えることができる。

●家庭や地域社会の声を聞く

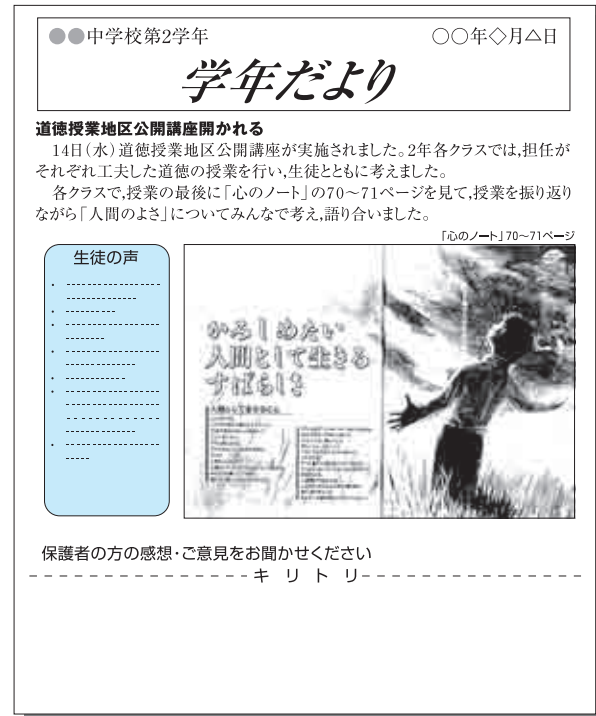
通信類や地域の掲示板、学校のホームページ等に「心のノート」の内容を紹介し、共に考えることで、家庭や地域の人々の声を聞くこともでき、より連携を図ることができる。



●学年通信での利用の事例

通信類として、学校だより、学年通信、学級通信、道徳通信、PTAだよりなど、様々なものが考えられる。また、ホームページの活用も考えられ、多様な媒体を複合的に活用することが大切である。

ある学校の2年生では、「生きる喜び」を主題とした道徳の時間の様子と中学校用P.80~81「かみしめたい人間として生きるすばらしさ」を学年通信に載せた。保護者へのアンケート欄には、中学校用P.83にある「あなたが目指す生き方とは」の部分の載せ、家庭からの感想・意見を記入していた。



「心のノート」P.83にある「あなたが目指す生き方とは」への保護者の記入

学校だよりや地域掲示板・ホームページなどを生かして取組を伝え、家庭・地域の声を聞く

●地域の掲示板を生かした事例

ある学校では、掲示用の学校だよりを作成して、学区の町内会に協力を依頼し、掲示板に掲示してもらった。地域産業の見学と、流通についての説明をした様子と、事後に子どもが中学校用P.79, P.110, P.122, P.126などに記述した内容を掲載した学校だよりを作成し、町内会の掲示板に掲示した。

また、別紙に、地域の人々が感想や意見を書く欄と、中学校用P.123の記入欄「ふるさとについて、あなたが伝えたいこと」を拡大コピーして掲示し、地域の人々にも記入していただいた。

☆子どもが「心のノート」に記入した内容

中学校用 P.78~79「大自然に何を想う」

・年輪を見てみると、400本もある木などもあり、すごいなあと感じました。時の流れについて考えました。

中学校用 P.110

「働く」ということには社会を支え、世の中に貢献する力がある」

・職業体験では、働くことはとても大変なことだと感じました。自分が実際に就職する時に備えて、心構えをしっかりもちたいと思いました。

中学校用 P.122

「ふるさとに自分ができていることはなんだろうか」

・地元にもこういう産業があることを知り、驚きました。地域の人々の活躍の様子を知ることができてうれしく思いました。

中学校用 P.126~127「あなたは「日本の伝統や文化」の頼りになる後継者である」

・木は昔から伝統的に日本人の生活の中に生かされ、いろいろと使われていることがよくわかりました。



地域の掲示板に掲示された「心のノート」に記入する地域の人

地域の人々に「心のノート」を紹介し、活用してもらうことは、地域の行事が活性化したり、人間関係が広がっていったりすることにつながる。「心のノート」には学校で使うばかりでなく、地域の行事や活動に参加したときに、子どもが活用できるページが多くある。地域の様々な人々に「心のノート」を紹介しておくことで、さらに活用の幅が広がることを期待できる。



留意点 いずれの場合も、教師が意図的に「心のノート」を生かし工夫を考えると同時に、子どもが記述した内容を紹介する場合には、本人の理解を得るなど十分な配慮が必要である。